

たとえ炎が見えなくても…

炎が見えない、炎がない暖房器具でも、「燃えるものが近くにあると引火する」などは、石油ストーブと同じです。

石油ストーブと同じように、「近くで洗濯ものを干さない」「近くでスプレー缶を使わない」「近づきすぎない」ように、注意しましょう。

＜炎が見えないストーブ・ヒーターの例＞



- ・石油ファンヒーター
- ・セラミックファンヒーター
- ・ガスファンヒーター
- ・カーボンヒーター
- ・電気ストーブ
- ・パネルヒーター
- ・ハロゲンヒーター

もっと詳しく知りたい方は…

経済産業省 商務流通グループ 製品安全課

TEL 03-3501-4707 まで

経済産業省 製品安全ガイドホームページ



詳しい情報はインターネットで!

http://www.meti.go.jp/product_safety/

製品安全ガイド

検索

製品安全情報をさらに調べてみよう

消費者庁「事故情報データベース」	http://www.jikojocho.go.jp/ai_national/
(独)製品評価技術基盤機構「製品安全分野」	http://www.jiko.nite.go.jp/
(独)国民生活センター	http://www.kokusen.go.jp/

なにげなく していませんか こんなこと ～石油ストーブを安全につかうために～



経済産業省

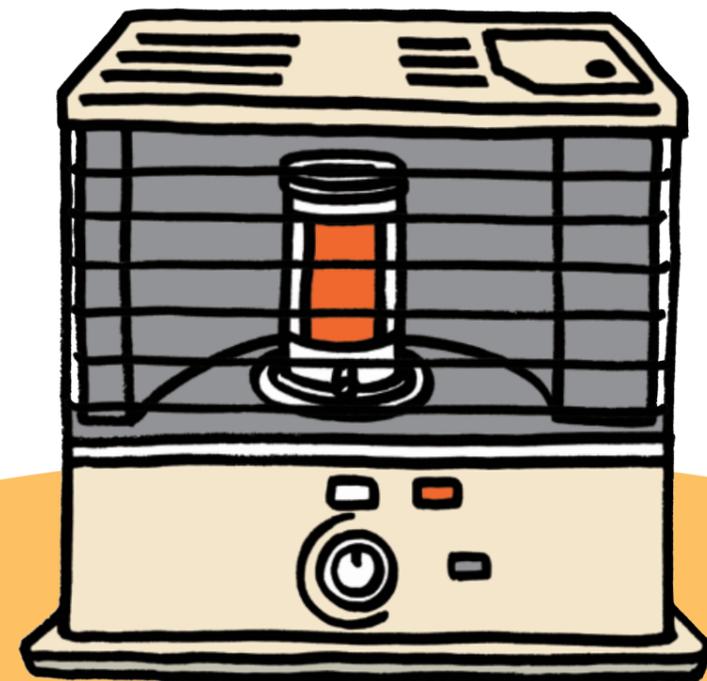


主婦連合会

<http://shufuren.net/>

なにげなく していませんか こんなこと

～石油ストーブの安全な使い方～



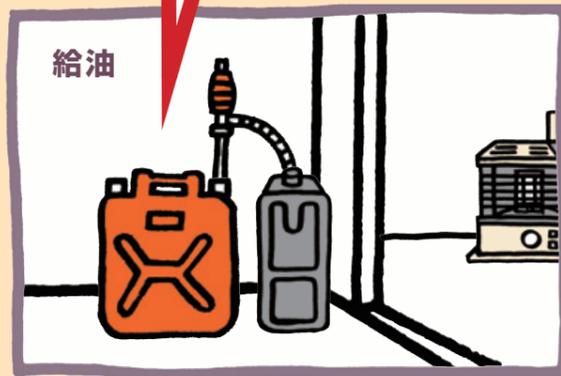
石油ストーブを使う手順で危険がひそんでいるのは、
「給油」と「暖をとる」ときです。
あなたは安全な使い方をしてますか？

「めんどくさい」 その考えが命取り

給油や移動は
消火してから

⚠ 変質灯油*に注意!

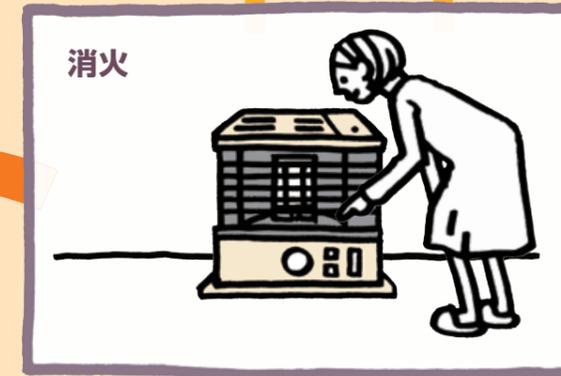
変質灯油を使用すると、不完全燃焼による一酸化炭素中毒やストーブの故障を招く恐れがあります。



点火



消火



移動



他の部屋で
使うとき

位置や
向きを
変えるとき

灯油が
なくなった
とき

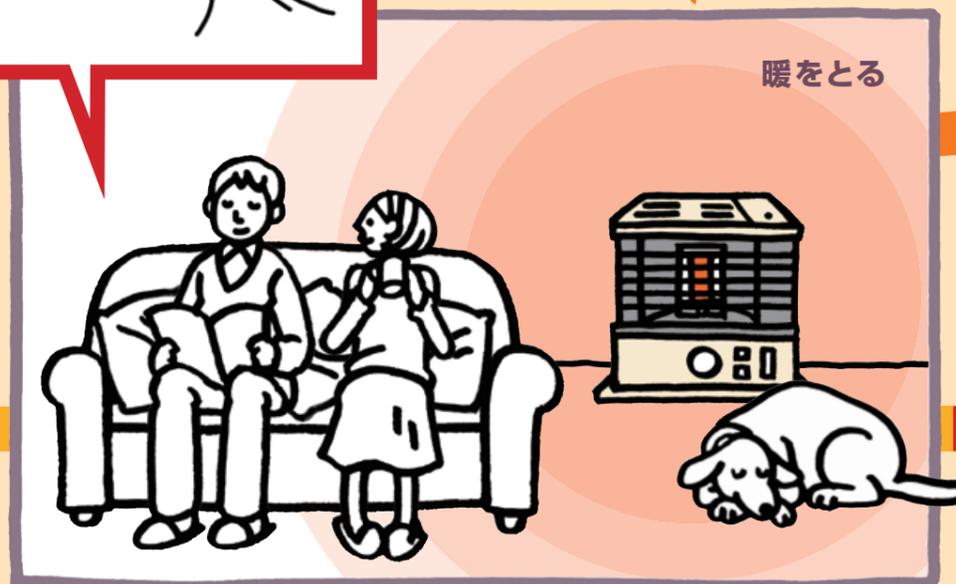


⚠ 換気に注意!

換気が不十分だと、一酸化炭素中毒になる恐れがあります。



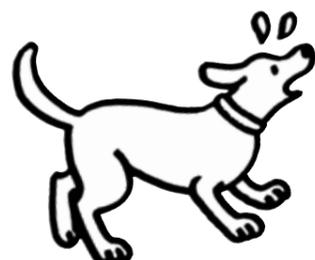
暖をとる



NO!

危険!!

消火しないで
給油する



NO!

消火しないで
移動する

危険!!



消火せずに石油ストーブを動かすと、ストーブが倒れたり、近くに置いてあるものに火がついて、火災になることがあります。

*変質灯油とは、昨シーズンから持ち越した灯油(特に、乳白色のポリタンクに入れていた灯油)や、日光が当たる場所・高温の場所で保存して、灯油の性質が劣化したものをいいます。

給油のときには危険がいっぱい!!



消火直後のまだ熱い石油ストーブに灯油がかかると、引火することがあります。



石油ファンヒーターも、給油のときは同じように注意しましょう。



事故につながりやすい、この3つの手順で、やり方を誤ると？

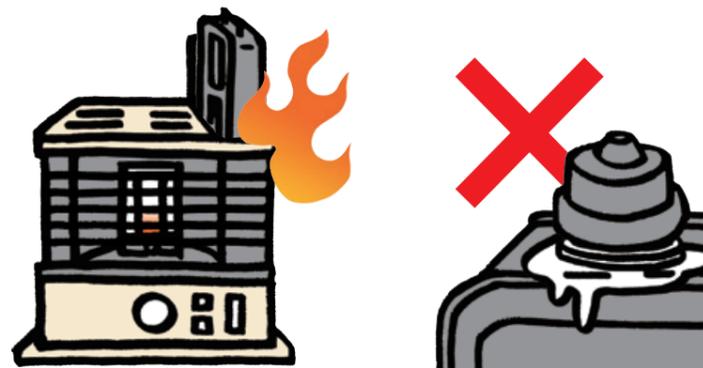
**寒い！
部屋の外に出たくない！**
でも、石油ストーブの近くで給油すると…

- カートリッジタンクが倒れたり、給油ホースが抜けたりして、こぼれた灯油に引火し、火災につながることがあります。
- 火の気があるところでの給油はやめましょう。



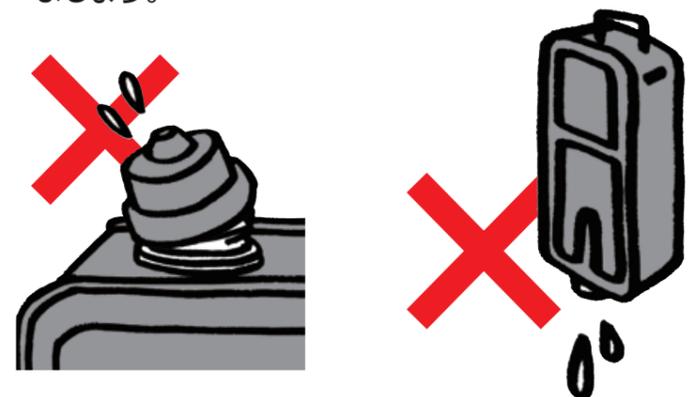
**何回も給油するのは面倒だし、
ぎりぎりまでいれちゃおう！**
でも、あふれると…

- あふれた灯油に引火すると火災につながることがあります。
- カートリッジタンクの外側やフタに灯油が付いてしまったときは、しっかりふき取りましょう。



**カートリッジタンクのフタは
手が汚れるからさわりたくない！**
でも、ちゃんとしめないと…

- フタをきちんと閉めないで、カートリッジタンクをセットするとき、点火するとき、取外すときに、灯油がこぼれて、火災につながることがあります。(高齢の方など、力の弱い方は、特に注意してください)
- 石油ストーブのそばに持って行く前に、カートリッジタンクを逆さにして灯油の漏れがないか確認しましょう。





なにげなく、こんなことしていませんか？

外に干しても乾かないし冷えるから、でも…



- ストープの近くで洗濯物を干すと、落ちて火災の原因となることがあります。
- 炎に直接触れていなくても、燃えるものがストーブの近くにあると、発火して火災につながる可能性があります。
- ストープの近くで、ものを乾かしたり、暖めたりすることはありませんか？危険なのでやめましょう。

せっかく火がついているから、でも…



- ストープをお料理や湯沸しに使っていると、鍋ややかんがひっくりかえり、中身がこぼれて、火傷をする原因となります。
- 煮こぼれ等が火にかかり、一時的に炎が大きくなり火災に至ることがあります。



つい、忘れていませんか？

はなれていても火がつくの？！

- スプレー缶には可燃性のガスが含まれているので、ストーブの近くでは使用はやめましょう。
- スプレー缶やカセットボンベをストーブの近くに置くと、中のガスが膨張して、爆発することがあります。

こんなものに注意！

ヘアスプレー／防水スプレー／静電気除去スプレー／殺虫スプレー／カセットガスコンロのボンベ など



冬は体が大きくなる？

- 寒いときには、たくさん着込んで着ぶくれていることがあり、気付かずに、衣類がストーブに触れて、溶けたり引火することがあります。
- 厚手の衣類や、毛足の長いものには注意しましょう。



あったかくてぼーっとしてきた？



- 一酸化炭素中毒は死亡に至る場合があります、非常に危険です。
- 窓を開けるなど十分に換気をしましょう。

